

[遺族] 竹山 弦伸 氏、佳克 氏

(平成 28 年 (当時 8 歳、6 歳)、弟を交通事故で失う)

[要旨]

○作文『私の交通安全運動 四歳のままの弟』

はじめに、僕が前期の生徒会長になって書いた交通安全ファミリー作文コンクールに応募した作文を読ませていただきます。

『私の交通安全運動 四歳のままの弟』 野津原中学校三年 竹山 弦伸

交通事故は一瞬の出来事です。いつ、どこで、誰によって起こされるのかは全く分かりません。そして、誰が被害者になるのかも分かりません。

交通事故と聴いて、皆さんは何を思い浮かべますか？

アニメやドラマ、映画などで、車に轢かれそうになっている子供やお年寄り、子犬や子猫を主人公が轢かれる寸前で助けるというシーンをよく見る事があります。しかし、それはいわゆる作り話の理想のお話です。事故に遭ったとしても、異世界に転生、もしくはタイムリープなどが起これば良いなどは想いますが、現実はそのような理想とは違って、今現在も毎日、交通事故は起きており、尊い命が奪われています。交通事故はとても悲惨であって、とても悲しい出来事です。多くの人を巻き込んで、悲しみのスパイラルを広げていきます。

私は交通事故と聴いて、弟のことを思い出してしまいます。

私が小学校2年生の3学期の2016年3月20日、4歳になったばかりの弟が自宅の前の道路で、車に轢かれました。轢かれたと言うより40m以上跳ね飛ばされました。私の目の前で事件は起こりました。私は畑の横の里道に座っていました。一瞬の出来事でした。今まで一緒に元気よく遊んでいた弟が、自宅の方から手を挙げて広域農道を私の方に向かって渡って来ようとしていました。すると右側から走ってきた白い車と共に、弟は目の前からいなくなりました。本当に一瞬の出来事でした。何が起こったのか分からずに顔を上げて見渡してみると、白い車が通り過ぎて停まったのはるか遠くの道路に、弟が跳ね飛ばされて横たわっていました。弟はピクリとも動きませんでした。私は、何が起きたのかも分からず、その場で座り続けていました。畑にいた母が弟に駆け寄りながら、母は私に向かって「弦伸、お父さんを読んできて！！！」と叫んでいました。

私は、無我夢中で走り出し、父のいる方に向かいながら、「お父さん、かずくんが車に轢かれたっ！！ かずくんが車に轢かれたっ！！！」と大声を出して、庭で作業をしている父のいる方に向かいました。

その後、救急車が来て弟は病院に運ばれて行きました。

その日の夜遅くに、弟は帰って来たのですが、元気でよく笑う弟はそこにはいなく、全く動かず、全く笑いもしない、額に大きなガーゼを貼られて、傷とあざだらけの弟の姿がありました。

6年も前の小学2年生の時の事なので、はっきりとは覚えていないのですが、自分の行いを悔やんだのだけは覚えています。

あの時、あそこで、弟が道路を渡ろうとしているのを止めておけばよかった……。

弟の面倒をちゃんとみていたらよかった……。

私が、道路の反対側で座っていなければよかった……。

自分がしっかりとしていたら、もしかして弟は死なずに済んだのではないかと、今でも思う事があります。しかし、過去を変えることはできません。

弟を轢いたのは、隣の地区の人でした。何度も会った事がある人でした。そして湯布院駐屯地所属の自衛官でした。国民を守るはずの自衛官が弟を殺したと知った時は、とても複雑な気持ちになりました。そして野津原中学校のPTA会員でもあった事を最近知りました。交通事故というものは、誰もが起こしてしまう可能性があるということです。

父は、弟の事故以来、大分市の交通指導員の委嘱を受けて交通安全運動の活動を実践しています。交通事故で悲しい想いをされる人をなくしたいと言っています。弟は生きていれば今は10歳の5年生です。弟の代わりに小学校まで歩いているんだとも父は言っています。

父から、車で一番大切なものは何かと聞かれる時があります。私は、エンジン？ タイヤ？ ハンドル？ 暑いときはエアコン？！ などと答えます。

しかし、父の答えはいつも決まって、車で一番大切なのは「ブレーキ」だと言います。ブレーキの無い、もしくはブレーキが利かなくなった車は怖くて運転などできないはずです。父は、自分の交通指導員としての制服姿が、すれ違うドライバーさん達の「心のブレーキ」になってほしいとよく話をしています。弟の事故の事を記憶に残して、思い出してもらえれば、交通事故は他人事ではないのだと想えるはずです。

警察官や交通指導員、そして被害者や被害者遺族の声に耳を傾けていく事で、一人ひとりの交通安全の意識や、交通危険への認識を深めていければ、きっと交通事故は減らせる事が出来るはずです。日頃から小さな事においても、ちゃんとルールを守ったり、マナーを高めることも大切な行いなのだと想います。

自己中心的な発想で、自分勝手にルールを解釈して捻じ曲げて、グレーなものを白だと言いつつ続けていると、いつの間にか黒もグレーにしてしまうのが人間の悪い処だとある小説に書いてありました。

逆に、人間の特質すべき能力は、「思いやりと譲り合い、そして助け合い」なのだと本の中に書いてありました。

あらためて書きます。「交通事故は一瞬の出来事です」。いつ、誰が、どこで起こすかなんて分かりません。そして誰が被害者になるのかも分かりません。将来、私自身が起こしてしまうかもしれません。今、この文章を読まれているあなたが起こしてしまうかもしれません。車社会である現代社会で、その車を不完全である人間が運転している以上、交通事故はこの世から無くならないのかもしれませんが。弟が交通事故で死んでしまった過去も変える事は出

来ないのかもしれませんが。

たとえ事実を変えることは出来なくても、抱いた想いはいくらでも変えていく事が出来るのではないかと思います。悪い過去を少しでも美しいものに変えていく為にも、人間の特質すべき能力である、「思いやりと譲り合い、そして助け合い」の心を交通安全運動に取り組みながら、私は鍛えて行きたいと思います。

○作文『死』

次に、写真集「生きてるって素晴らしい！」の97ページを開いてください。そこには事故で亡くなった^{かずさと}沓里を囲んだお葬式の時の家族写真があります。姉は当時15歳、中学校を卒業したばかりでした。兄は当時12歳、小学生6年生で卒業式間近でした。

写真集にある、姉が高校入学してすぐに書いた作文を、佳克に読んでもらいます。

『死』 竹山 果歩

私は死について考え直してみました。

先日、4人目の弟、4歳の沓里を交通事故で亡くしたからです。

死んでいる、弟の顔は、傷付き、苦しそうに見えました。

しかし、よく見ると嬉しそうな顔をしていて、

まるで眠っているかのような顔で死んでいました。

その姿を見て私は、

「何か言って欲しい・・・」

「何かをしゃべって欲しい・・・」

「何でもするから、もう一度笑って欲しい・・・」

それと同時に、私が長女、弟たちの姉だからでしょうか、

「私が一番しっかりしないといけない！」

と言う思いが湧き上がって来ました。

焼かれて骨になった沓里。

骨となり変わり果てた弟の姿を見て、

「ああ、これでもう私たちの元に帰って来ることは絶対ないんだ、

これで本当に最後なんだ」

二度と私たちの手には届かない所に逝ってしまったことを実感しました。

そう分かりました。

弟の死について振り返り

「命というものが、あまりにも脆いということ」

「死というものが、自分たちの身近にある特別なものではないということ」

「死」は、生きている者ならば必ず絶対に身に起こるものなのだと、

改めて分かった気がします。

○詩『命』

次に、パンフレット「交通安全の祈りを込めて・・・」に、兄が中学校入学後に書いた『命』の詩があります。これも佳克に読んでもらいます。

『命』 野津原中学校1年 竹山 昇成

家族とは、いつもそばにいてくれるのが普通なんだと思っていました。

みなさんもそれが当たり前だと思っているのではないのでしょうか。

でも、それは違いました。

僕は、今年の3月に一番下の弟を交通事故で失いました。

たった4歳で死んでしまったのです。

今まで当たり前だった日常は一瞬で、ぐちゃぐちゃになりました。

その時、支えになってくれたのは、家族でした。

みんなで泣いて、みんなで悲しんで、みんなで話し合い、支え、励まし、助け合い、また笑うことが少しずつ出来るようになりました。

家族が居てくれることをありがたく思いました。

僕は、こんなにも簡単に、それも一瞬で命が消えていくこの世の中を許せません。

それと同時に、こんな世の中を変えたいと思いました。

子どもから大人まで、全ての人にあらためて知って欲しいのです。

『命』とは、いつ、どこで尽きるか分からない事を。

そして、かけがえのない家族の大切さを。

『生きてるって、素晴らしい!』ということ。

○僕を忘れないで

最後になりますが、「交通安全の祈りを込めて・・・」のパンフレットを開いてください。

沓里の写真の横に、「僕を忘れないで」と書いてあります。今回のシンポジウムのテーマは、「交通事故できょうだいを亡くした子供の支援」とありますが、もし今日御参加の皆さんが、僕達きょうだいに対して御支援していただけるのであれば、沓里のことをできる限りでよいので、忘れないであげてください。

あるアニメの名言の中に、「人はいつ死ぬと思う。人に忘れられた時さ」とあります。できることならば、皆さんの心の中で、かずくんを生かし続けてやってください。皆さんの記憶の中でかずくんの魂は生き続けるのだと思います。

「交通安全、安全運転、事故0」のシールを、お配りしているファイルの中に入れてあります。どうか、沓里を役立たせてやってください。それだけが、僕達きょうだいの望みです。